

山東勤弥 (SANDO Kinya)

学芸学部 食物栄養学科 教授
大学院 人間科学研究科 人間栄養学専攻 教授

略歴・学位等

最終学歴 1989年6月 大阪大学大学院医学系外科系博士課程小児外科専攻修了

学位 理学士(東京大学、1979年3月)、医学士(大阪大学、1983年3月)、医学博士(小児外科)(大阪大学、1989年6月)

資格・免許 1984年3月 医師免許(第278468号)、1994年6月 日本消化器外科学会認定医(第1009422号)
1994年12月 日本外科学会認定医(第5609号)、2002年12月 日本外科学会専門医(第1902046号)

略歴 1983～84年 大阪大学医学部附属病院研修医、84～85年 市立芦屋病院外科医員、89～91年 国立呉病院小児外科医員、91～93年 大阪府立病院消化器一般外科主任、93～99年 大阪大学医学部(小児外科教室)助手、95～97年 New Zealand国Auckland大学外科教室シニア研究員、99～2000年 大阪大学大学院小児外科助手、00～03年 同大学院小児外科講師、03～05年 りんくう総合センター市立泉佐野病院小児外科部長兼地域医療サービスセンター長、05年～現在 大阪樟蔭女子大学教授、同大学院教授

教育活動

担当科目 臨床栄養学、公衆衛生学、基礎ゼミ、演習、臨床栄養学実習

他大学等 大阪府立看護大学 非常勤講師(1995年4月～2005年3月)
大阪市立環境科学研究所附設 栄養専門学校 非常勤講師(2003年4月～現在)
大阪大学大学院医学系研究科 非常勤講師(2003年10月～2005年3月)
大手前栄養学院専門学校 非常勤講師(2004年9月～現在)
森ノ宮医療学園専門学校 非常勤講師(2005年5月～現在)

研究活動

専門分野 臨床栄養学、人間栄養学

研究課題とその概要

(課題1) 人間栄養学研究、臨床栄養学研究、人間栄養実践研究、人間栄養特殊研究
(概要) 臨床栄養の重要性が認識され、各医療機関で医師、栄養士、看護師、薬剤師などからなるNST(Nutrition Support Team)が設立され始めている。栄養士は主役的立場と考えられ、他のメンバーと同等以上の能力が要求される。「食のプロ」としての特性を活かし、さらに高度な知識と技術の習得を目標とする。具体的な研究テーマは、臨床栄養で不可欠である栄養評価に関して、簡便・非侵襲で信頼度の高い評価法の開発と新しい評価法の概念(clinical bedside assessment)の確立についてである。

研究業績

主な研究業績

区分	発行年月	著書・論文等の名称	発行所、発表雑誌等の名称
著書	2005年	「管理栄養士 全科のまとめ」(共著)	東京化学同人(東京)
	2005年2月	実践 静脈栄養と経腸栄養 応用編(共著)	エルゼビア・ジャパン(東京)
	2004年9月	認定 NSTガイドブック	メディカルレビュー社(東京)
論文	2005年	III 医学・医療の進歩 15. NST(共著)	『日本医師会雑誌』Vol.133 No.3
	2004年12月	中心静脈カテーテル挿入から管理まで	『麻酔』Vol.53 増刊号
	2004年6月	学会レポート:第19回日本静脈経腸栄養学会	『栄養-評価と治療』Vol.21 No.3
	2003年8月	静脈栄養施行中の患者における間接熱量測定	『栄養-評価と治療』Vol.20 No.4
その他	2003年2月	学会レポート:第24回日本臨床栄養学会総会・学術講演会	『栄養-評価と治療』Vol.20 No.1
	2005年2月	(講演、セミナー) 教育セミナー 在宅栄養療法	第20回日本静脈経腸栄養学会認定教育セミナー
	2005年1月	NSTの役割と栄養評価の実際	第1回倉敷NST研究会 記念講

	2004年11月	(開発製作) 鎖骨下静脈および内頸静脈穿刺用シミュレーター (共同)	演会 株式会社京都化学
	2004年	(DVD) セミナーシリーズ Vol.1 症例に学ぶ！ここまでわかる栄養アセスメント (共同) セミナーシリーズ Vol.2 症例に学ぶ！パワーアップ スキル：アセスメント SGA+褥瘡 DESIGN (共同)	株式会社フリーク・セブン 株式会社フリーク・セブン

所属学会等 日本静脈経腸栄養学会(評議委員、2002年～現在 TNTプロジェクト実行委員会近畿地区幹事、2003年～現在 倫理委員会委員長、2005年～現在 フェロウシップ委員会副委員長)、米国静脈経腸栄養学会、日本微量元素学会(評議委員、規定委員委員長、財務委員、2005年～現在)、日本外科代謝栄養学会(評議委員、1985年～現在)、日本臨床栄養学会(評議委員、2003年～現在)、日本健康・栄養システム学会(評議員)、日本栄養アセスメント研究会(世話人、2004年～現在)、近畿輸液栄養・研究会(世話人、2003年～現在)、日本外科学会、HIT(HOME INFUSION THERAPY)研究会(世話人)、日本栄養療法推進協議会

研究助成 科学研究費補助金による基盤研究(B)(1997年)「生体内総窒素量、総脂肪量、総水分量の同時・非破壊測定法の確立ならびに臨床応用」

社会活動

委員等 1986年4月、厚生省特定疾患 難治性炎症性腸管障害調査研究班
2000年5月、日本栄養アセスメント研究会 「身体計測基準値検討委員会」委員となり、2001年に「日本人の新身体計測基準値(JARD2001)」策定。
2003年10月、厚生労働省「日本人の栄養所要量-食事摂取量基準-策定検討会ワーキンググループ構成員」
2004年4月、日本医療機能評価機構「認定病院患者安全推進協議会ワーキンググループ構成員」として、「中心静脈カテーテル挿入(CVC)に関する指針」を策定。
2005年10月、管理栄養士国家試験委員

教育・研究・社会活動の方針

臨床に関する教育カリキュラムの時間数が最も少ない管理栄養士が、医療チーム内で主役的な役割を果たせるようにする。具体的には、論理的思考ができ、判断のための資料や情報を的確に収集し理解できる人間を育てる。そして、患者に対して、「熱意」をもって、「誠意」ある対応ができ、さらに「創意工夫」を心掛ける3つの「意」を持った人間を育てたい。

※本原稿は、2005年度発行「教育・研究者総覧」より抜粋させていただいております。